



学校だより

1月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

「友達のそばで」

特別支援コーディネーター 雨宮 孝子

学校では、様々な学年、いろいろな個性のお子さんが生活を共にしています。

11月26日に行われたなかよし活動では、全校の児童が大池公園で活動を共にしました。異学年の多様な発達段階の子どもたちが一緒に活動するので、リーダーとなる6年生は下級生をどうリードしていくかが大きな課題となります。準備の活動では、1年生にもわかりやすいように行程や遊びについて説明をしていました。グループでの遊びを決めるのはなかなか難しい活動です。高学年と1年生では遊びの経験値が違います。ただでさえ遊びの経験も少ない上に、初めての大池公園でのなかよし活動で半日を過ごすとは1年生には不安も多いでしょう。そんな中、6年生はなるべく1年生も知っている遊びを事前にリストアップしたりみんなに希望の遊びを挙げてもらったりした上で、その場にいる1年生に知らない遊びがないかを確認していました。そして、知らない子がいたら説明をしたり試しにやって見せたりして、誰もが参加できるように上手に工夫していました。

また、委員会の活動では、ポスターやお知らせの作成の際には、「1年生にも分かるようにふりがなを付けてあげよう」「1年生でもわかる言葉を使おう」など、高学年は下級生をイメージしてユニバーサルデザイン化を図るようにしています。

学校生活は、いろいろなお子さんが集団で活動することがほとんどです。児童発達に詳しい精神科医の本田英夫先生は『みんなで一緒に』を考える時、英語では『together』日本語では『共に』をイメージすることが多くあるが、『みんな一緒(together)』を『みんなで同じ(same)』と考えるのは間違いである。」とおっしゃっています。また、「本来のインクルーシブは『多様性を認めること』であり、togetherよりも alongside（日本語の表現なら『そばで』『横に並んで』『隣に』）のような形で行われるべきである。」とも述べられていました（「LITALICO発達ナビ」より）。集団生活の中では「みんなが同じ」であることが求められているように思われがちですが、本当は違うもの同士がそばで過ごすことで、わかり合い助け合いながら一緒に過ごす力を身に付けていくことが大切です。6年生は高学年になったからといって急に上手に縦割り活動を進行できるようになったわけではありません。1年生から数年間かけていろいろな人と触れ合い、「そばで」「隣で」共に過ごす経験を積み重ねてきたからこそ「いろいろな子」に対するイメージをもち、様々な対応をとれるようになるのです。

実際は同じ学年、クラスの友達であっても育った環境や価値観、経験値が違います。そんな小さな集団の中でもそれぞれの個性を認め合い、困った時は誰かに助けをもらいながら、自分にできることで人の役に立とうと思えるような仲間づくりができればいいなと思います。

学校は、今年度より一人一台のタブレット端末の配当やネットワーク環境の整備が行われたことで、以前よりも多様な学びが保障されるようになりました。タブレット端末で各自が多様な入力方法を選択できるようになり、写真や絵を活用して資料を作ることが簡単にできるようになりました。自分の得意なツールを選んで学習することが当たり前の環境になってきています。子どもたちが、自分に合ったやり方で安心して学校生活を送り、互いのありのままを認め合い、相手を思いやる心を育ていけるよう、学校は今後も支援と工夫を続けていきたいと思っています。本年も、どうぞご理解ご協力をよろしくお願いいたします。